

温泉・秘湯めぐり 小林裕彦さん 集めた温泉ちようちん、約三〇〇個！ 全国の温泉を制覇する「温泉博士」。

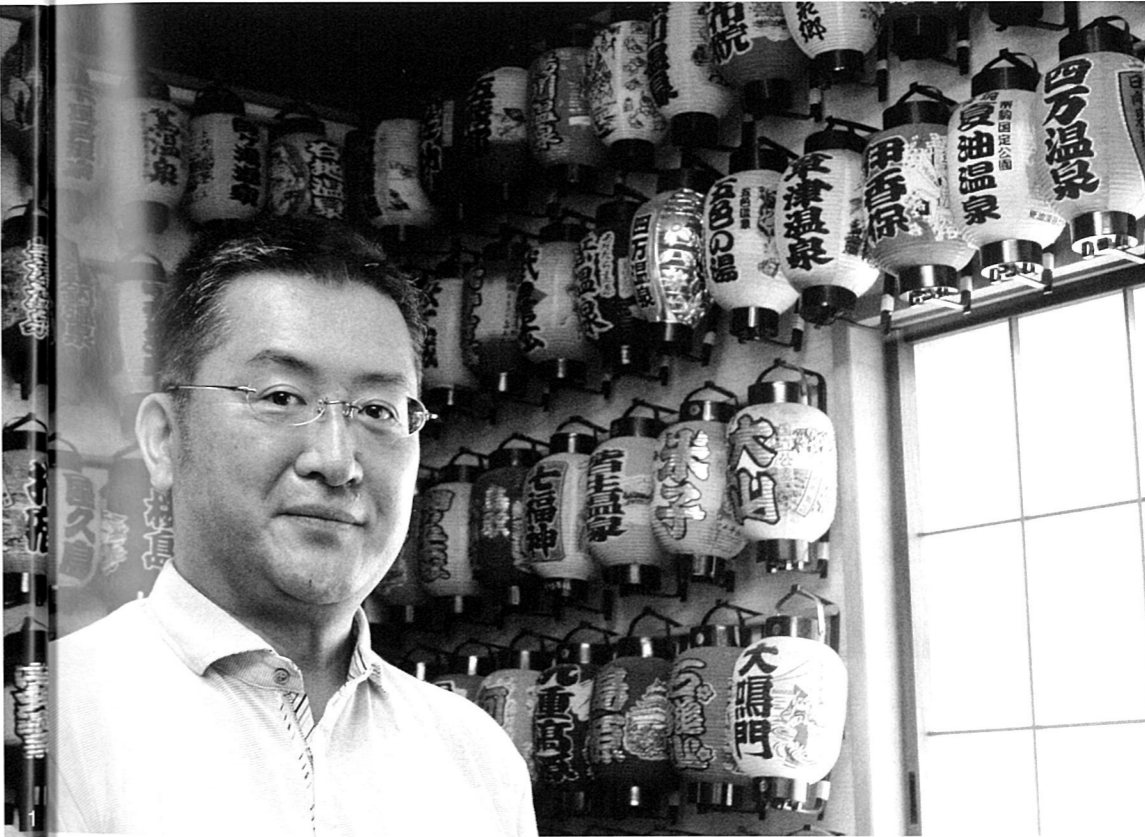
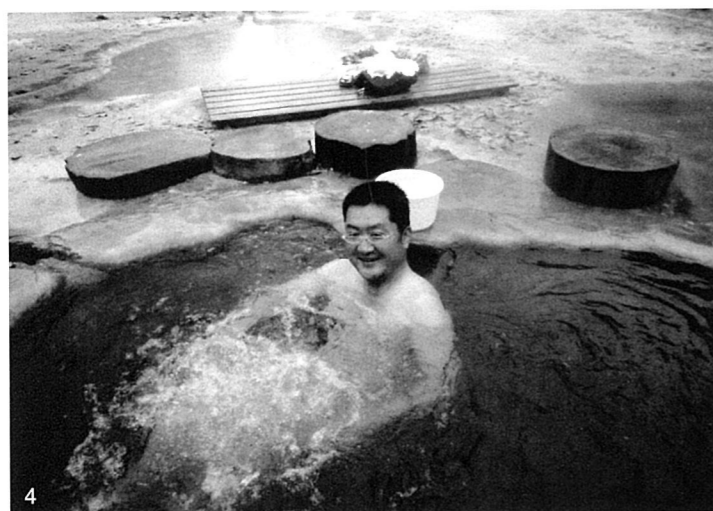
「一九九五年頃から温泉めぐりを始め、全国約三〇〇か所の温泉の大半をほぼ制覇。温泉に関する造詣の深さから「温泉博士」の異名でテレビ出演や講演活動などもされています。そもそも温泉好きになっただけですか？

小林「一八年ほど前のこと。当時私は弁護士としての法律事務所業務をこなしていたのですが、不眠不休のあまりの忙しさに、ある時まったく思考能力がなくなりましてね。これは一度心身をリセットしなくてはいけないと思い、栃木県の北温泉と奥塩原温泉、福島県の二股温泉へ三泊四日の旅をしました。そこで身体だけでなく心の疲れもすっかり吹き飛んで、癒されたんです。この時、温泉は「効くな」と実感したんですね。この旅でリフレッシュして帰ったのですが、三か月もたないうちに禁断症状が出てきました。また温泉に行きたくてうずうずするんです。それから行くペースがだんだん早くなり、とうとう一か月おきに温泉地へ出かけるようになってしまいました(笑)。

がないところなどは仕方なく長時間歩いたり、ヒッチハイクをしたりとけっこう苦労しているんです。そうやって訪れたなかでも印象に残っている温泉といえば、秋田県の奥八九郎温泉。赤茶けた台地に穴が開いていて、そこから二酸化炭素の泡がポコポコ湧いている。浸かっているうちに危うく二酸化炭素中毒になりかけました。鹿児島島の霧島温泉の近くでは、立ち入り禁止の山中の温泉に入った時に、硫化水素中毒になりました。北海道では熊に遭遇しましたし、山道を滑って崖から落ちそうになったことも。また鹿児島島の硫黄島では、海の中に湧いている温泉に浸かっていると海へビが出てきました！トカラ列島のある島では虫に身体中刺されて、それが膨れ上がってエライことになりました(笑)。本当に思い返せばいろいろな体験をしましたね。

小林さんの考える「いい温泉」の条件とは？

小林「源泉からの距離が近く、できれば足湯出がベストですが、少なくとも湯量が多い温泉。当然のことながら掛け流しで、加湿や加水や塩素殺菌をしていないほんまもの温泉です。それから泉質ですが、湯に力があること、さらに言えば温泉成分表に表われない湯のよさが実感できる温泉ですかね。ただ大切なのは、掛け



●こばやしやすひこ●
1960年、大阪府大阪市生まれ。1984年、一橋大学法学部卒。同年労働省入省。1992年に岡山弁護士会に登録。2004年と2009年に岡山市包括外部監査人に就任。2005年に岡山弁護士会副会長を務める。2011年から政府地方制度調査会委員、岡山大学経営協議会委員などを務める。玉野市在住。

「これまでに何か所めぐられたのですか？ また訪れた温泉地で集めた「温泉ちようちん」のコレクションもかなりのものだとお聞きしました。

小林「現在温泉は全国に約三〇〇か所あるといわれていますが、その大半はほぼ回り、台湾の温泉も目ぼしいところはだいたい行きました。ちなみに国内は、北は日本最北端の利尻島・礼文島から南は西表島、さらには鹿児島港から船で七、八時間かかるトカラ列島にも行きましたね。温泉めぐりを始めた頃から、「自分が訪れた証になるものが何かあれば」と、温泉名やご当地の絵柄が入った「温泉ちようちん」を土産として買って帰るようになりました。最初は書齋に並べて飾っていたんですが、どんどん数が増えて今では廊下まで占領しています(笑)。

「道中での面白いエピソードがあったら教えてください。」

小林「私はクルマを運転しないので、どこの温泉にも電車とバスとタクシーを乗り継いで行くんですが、便

流しは全国の温泉のなかでも約二割と少数派だということ。ですからみなさん一人ひとりが温泉に関する正確な知識と情報を持って、自分の感性に合った温泉を見つけるべきでしょう。

「温泉博士」として県内外から講演会に招かれることがあると。

小林「はい。昨年一〇月には愛媛県の道後温泉旅館協同組合から依頼されて「道後温泉の未来」というテーマで講演会を行いました。岡山県内でも老人会や婦人会などからの依頼を受けて「温泉博士のお勧め温泉」というテーマで、身も心も温まるお話をすることがあります。

「リフレッシュするだけではない愉しみを満喫されているようですが...」

小林「最近では共同湯のある温泉地に行き、そこで地元の方と交流することも大きな愉しみなんです。地元の人からの温泉情報は貴重ですし、そこから温泉地や地域が抱える問題も見えてきます。それが、岡山県内のさまざまな地域の問題を考えるにあたっても参考になりました。

「今後行きたいと思われている温泉がありますか？」

小林「国内では、時間の関係でまだ行けていない山奥の温泉ですね。あとは海外になりますが、チェコやフィンランドなどの温泉にもぜひ行ってみたいですね。

- 1 約300個の温泉ちようちんコレクション。その温泉のイメージに合った絵柄を選んで購入するそう。ひとつひとつに深い思い出がまつわっている。
- 2 熊本県の黒川温泉郷では、チケットの代わりに木製の入湯手形が。また長野県の渋温泉では9つの外湯をめぐると手ぬぐいに記念スタンプを押して満願成就。
- 3 新潟県の蓮華温泉。「標高1475mの野天風呂は最高の解放感でした。生きているのが幸せ、と心から感じましたね」と小林さん。
- 4 林道を進むと突然穴が現れ、そこからポコポコと湯が湧いているという秘湯「奥八九郎温泉」。これはまさに天然のジャグジー温泉！